

小笠原村教育委員会教育長

松本 隆 様

小笠原村立小笠原中学校長

新妻 茂 公印

## 平成28年度 小笠原村立小笠原中学校 評価報告書

標記の件について、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 本校の教育目標

##### [教育目標]

- よく学び、考え、行動する人
- やさしくたくましい人
- 社会の一員として貢献できる人

##### [学校経営方針における教育活動の目標]

- 最重要課題 学力向上（授業力向上）

Key word: Breakthrough（難関や壁の突破、行き詰まりからの進展）

- ・学ぶ意欲の喚起
- ・学習習慣の確立
- ・自分の学びに自信を

#### 2 学校関係者評価の概要

##### 【保護者】（保護者アンケート参照）

##### [実施状況]

- H28.12月実施した。 ※回収45名、回収率83.3%（昨年度は86.3%）
- 21項目で実施。経年比較ができるよう、アンケート内容は例年同じとした。
- 方法は生徒を通事で配布し封筒を使用して回収した。
- 学校だより1月号に1部掲載。3月保護者会および学校ホームページで全面開示する。

##### [保護者アンケート概要]

- 肯定 80%以上 5項目
- 80%未満 16項目
- 肯定が高い項目
  - ・設問9 生徒の学習状況や成果（評価）を、通知表やアドバイスカード等を通し、適切に伝えている。89%
  - ・設問3 保護者会（4・10・3月）や面談（4・12月）等、保護者の方に来校していただく機会は、適切な時期・内容で設定されている。87%
  - ・設問19 教職員は保護者に丁寧に対応し、いつでも相談できる雰囲気がある。86%
- 肯定が低い項目
  - ・全教員で道徳授業に取り組むことで、生徒の道徳性が高まっている。40%
  - ・学校ホームページを活用している（見たことがある）。41%
  - ・授業の中で、情報教育（情報モラル教育・操作指導・情報の取捨選択等）を進めている。41%

○肯定が著しく昨年度より(10%)上昇した項目 1

- ・学校 facebook を活用している +12%

○肯定が著しく昨年度より(10%)低下した項目 1

- ・日頃から日常のマナーや社会のルールについての指導が行われている。 -17%

○肯定が上昇している項目 7

○肯定が変わらない項目 1

○肯定が下降している項目 13

[分析]

○アンケート回収率は昨年度と比べ変化はさほど無かった。

○保護者への情報発信や対応について良い評価であった。

○生徒の道徳性や日常のマナーや社会のルールについての指導について肯定が低かったり昨年度の肯定より低くなったりしている。

○授業・学習についての設問5～13で肯定が70%を超えている項目が少ない。

[次年度へ向けて]

○今後も継続して開かれた学校づくりを推進しよりよい信頼関係を築いていく。

○研究授業等を行い教員の授業力を向上させるとともに、生徒の学習習慣が確立できる取り組み等を行い生徒の学力向上を目指す。

○道徳教育を推進するとともに、マナーやルールについて日頃の学校生活を通して多面的に指導を行う。

【生徒】(授業アンケート実施)

[実施状況]

○年2回、7月に10項目と12月に9項目を各教科において授業アンケートを実施した。

○概要は次のとおりである。

質問一覧

1 忘れ物をせず、授業に取り組むことができる。

7月実施結果

質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
肯定 (%)	93.1	90.8	92.3	84.2	58.7	84.2	83.8	85.2	87.7	79.4
否定 (%)	6.92	9.23	7.69	15.8	41.3	15.8	16.2	14.8	12.3	20.6

2 授業中、集中して意欲的に取り組むことができる。

12月実施結果

質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
肯定 (%)	93.6	90	90.4	82	63.5	91.9	91.9	93.9		86.7
否定 (%)	6.43	10	9.64	18	36.5	8.14	8.14	6.06		13.3

3 授業中ノートやプリントへの記入を行うことができる。

4 宿題や課題は期日を守り、提出することができる。

5 予習・復習を行い、授業に臨むことができる。

6 わかりやすい説明が行われている。

7 教え方や教材に工夫がされている。

8 生徒の質問に対して、丁寧に説明を行っている。

9 評価の方法について、授業の中で説明があった。

10 授業規律が成り立っている。

[分析]

○学力調査や7月実施した授業アンケート、生徒の学習状況から授業改善プランを作成した。その結果、教員の指導に係わる項目6から10で肯定の割合が高くなったが、生徒の学習に対する取り組みでは項目3項目4の肯定が下がっている。

[次年度へ向けて]

○今後も生徒の実態を把握し、個に応じた指導を丁寧に行うとともに、生徒の学習習慣が確立できる取り組み等を行い生徒の学習意欲の向上を目指す。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組 み①	学習習慣の確立 個々の学習習慣を 確立するために進路 学習部を中心に組織 的に取り組む。進路学 習だよりの定期的な 発行により啓発を図 る。	○生徒各自の学習関係の資料を一つ にまとめ、自分での振り返りや面談等 の充実を図る。 ○調査前を中心とした学習会(補充教 室)の実施 ○進路通信の定期的な発行を中心と した本人及び保護者への意識啓発 ○朝一番で課題を提出させるなどの 家庭学習の習慣化を図る取組	各教科からのアドバイスカードの活用 により生徒が振り返りを行うことがで きた。評価を理解する一助になった。 調査等の一時的な頑張りは見られるが、 継続的な学習習慣の確立には至ってい ない。 また、キャリア教育等と併せ、生徒に目 的意識を持たせたい。
取組 み②	道徳教育とキャリア 教育の新たな展開 ※学ぶための動機づ けや学習習慣の確立、 困難なことに立ち向 かうための基盤とし て、道徳教育とキャリ ア教育をとらえなお し、全教育活動を通し て展開する	○道徳教育 ・システムとしてはこれまでのものを 継続 ○キャリア教育 ・3年間を見通したキャリア教育の 構築 ・修学旅行において、上級学校訪問 に加え、「大学」訪問を実施する。	○道徳教育 どのように生徒を揺さぶっていくのかを 考えなくてはならない。生徒が何に対 して不安を持っていて何を悩んでいる のかをつかんで、狙いとする価値にア プローチをしていく。 ○キャリア教育 職場体験や職業についての講話など 地域との連携により充実した内容担 った。 今年度は大学訪問を実施した。生徒に とって自分の将来を考える契機とな った。
取組 み③	人権教育の推進 生徒の人格を尊重す る趣旨から呼び捨てに せず敬称を付けて呼ぶ とともに教員・生徒の 言語環境を整えていく。 併せて校訓の趣旨を徹 底する。	○生徒を敬称をつけて呼ぶなど、平 素の教員・生徒の言語環境を見直す。 ○いじめ、体罰等の教育課題に積極 的に取り組むために、ふれあい月間 などを機会としアンケート調査の実 施をする。 ○教員の資質向上を図るための研修 会の充実・生活指導部を中心とした 組織的な対応をする。	日頃から教員が生徒との関わりを多 く持つことができた。また、生徒から のアンケート結果や日頃の生活をい じめ対策学校サポート協議会で報告 した。関係機関、地域からの助言を いただくことができた。 また、人権教育に関しては、集団生 活を向上させる基盤と考え、道徳と 併せ、より具体的に、進めていく必 要がある。
取組 み④	OJT 体制の確立と充 実	○若手教員育成研修体制を整え若 手教員育成を図るとともに、若手 教員だけでなく、主幹教諭を中心 にOJT体制を、確立し回議を徹底 させた。 ○全教員が年2回以上の研究授業 を実施する。 ○内地での夏季研修等への積極 的な参加する。	教員の資質向上は、次年度も実態 に合ったOJTを構築し、危機感を持 って行っていく必要がある。 ○研究授業を行い、その協議会では 授業力の6要素を明確にし、協議を 行った。日頃の授業で生かすことが できた。

\*上記のことを踏まえて、次年度の学校経営方針及び教育課程を作成いたします。